

# 基礎科学（物理学）演習

科目責任者：大 森 理 恵（基盤教育部門（物理学））

## I. 前 文

第1学年の必修科目である「基礎科学（物理学）」は高校課程で物理学の履修が十分でなかった学生を対象に開講している。1学期に集中して多くの事柄を学ぶ。授業進度に合わせてながら演習を行うことで、理解を確実なものとし、一層の深化を図ることができるように設定する。

## II. 受入可能人数

4～5人（ただし、基礎科学（物理学）を受講していること）

## III. 担当教員

大 森 理 恵（基本医学基盤教育部門（物理学））

## IV. 学習内容

専用のノート1冊を各自用意していただきます。「基礎科学（物理学）」の講義で学習したテキスト範囲を事前に熟読し質問事項をメモしたり、テキスト中の設問に取り組んでノートに解答します。授業では個別に質問に応じるとともに各自のペースで演習をすすめます。受講後には自分だけの演習ノートが出来上がります。このノートは必修科目「基礎科学（物理学）」の成績の向上に役立つとともに、これを見直すことで自分の学習の深まりを振り返ることができます。

実施スケジュール：

全7回、基本的には5/11 V限、5/19 V限、5/27 V限、6/1 V限、6/9 II限、6/16 II限、6/24 III限、  
ただし、都合による変更もあり得る。

## V. 学修の到達目標

- ・テキストを熟読し、理解し難い内容について質問事項にまとめることができる。
- ・演習ノートを作成し、必修科目「基礎科学（物理学）」の成績の向上に役立てることができる。

## VI. 成績評価の方法・基準

課題取り組みへの積極性および毎回の提出ノートをもとに評価します。

## VII. 使用する教材・資料など

専用のノート（普通のノートでよい、レポート用紙、ルーズリーフ等バラバラになるものはダメ）、基礎科学（物理学）の講義で使用しているテキストとノート、電卓、数学の教科書など。

## VIII. 質問への対応方法

物理学研究室（教室棟3階）にて随時受け付けます。

メールアドレス：rohkori@dokkyomed.ac.jp

## IX. 求められる事前学習、事後学習\*（ ）内は所要時間の目安

事前学習（予習）：「基礎科学（物理学）」の講義で学習したテキスト範囲を熟読し、設問に取り組んでみる。内容についての質問があればメモする（30分程度）。

事後学習（復習）：返却されたノートを見直し、再度解きなおして理解を深める（15分程度）。

X. コアカリ記号・番号

A-9-1) ①生涯学習の重要性を説明できる。

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

ノートは毎回終了時に提出していただきます。担当がチェックし速やかに返却しますので、次回に備えてください。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP    ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○